

昭和二十一年三月
至五月

衛生史編纂資料

第六編
軍醫部



0002

昭和三年三月三十一日衛生史編纂資料 第六方面軍軍醫部

一、部隊行動の概要

一、第六方面軍ヨリ第一回ノ復員ハ三月二十五日行ハル本復員ハ計畫輸送ニアラズ前夜半突如中國側ヨリ命令アリテ決定シ一兵ニテモ速カニ下航セントスル主旨ニ基キ行ハレタルモノニシテ之ガ爲楊子ニ集結中ノ各部隊殘留者 退院者等雜多ナル統制ナキニ十八ヶ部隊總員三四七六名ニシテ未ダ復員準備モ未完成ノモノヲ急遽乗船セシメタル爲著シク混乱シ檢疫モ實施スルコト能ハズ乗船名簿サヘ無キ者ガ混入セシ狀況ナリキ同時ニ第六方面軍司令部上海先遣隊 田邊中佐以下一〇三名曰僑一ニ〇名モ出發セリ

二、三月二十日第六方面軍司令部ヨリ管内日本官兵歸還輸送一計畫ヲ武漢行營ニ提出セリ要旨左ノ如シ
(1) 餘剩外洋船舶ノ大部ヲ機ヲ失セズ武漢岳州九江方面ニ

轉用シ四月上旬以降本格的輸送ヲ開始概ネ六月未迄迄ニ七月未頃迄ニ之ヲ完了ス

(2) 各部隊ハ揚子江沿岸各集結地ヨリ乘船シ一舉ニ日本内地ニ直航輸送ス

(3) 入院患者ハ一般將兵ト並行輸送ス

(4) 乘船ノ爲ノ檢疫ハ各乘船地ニ於テ實施ス

(5) 日僑患者中重症者ハ軍ノ患者ト共ニ下航セシメ其ノ患者附添家族ヲ同行セシム

了曩ニ第六方面軍管内將兵ハ復員ノ爲上海迄行軍スルガ如キ計畫アリシモ左ノ通中止ス

漢字第二五号 通報

中華民國三十五年三月十四日

茲ニ中國陸軍總司令何應欽三月九日附偵格代電ニ據レバ

「惟ニ湘鄂區日俘ノ上海港口ニ至ル行軍ノ件ニ就テハ曩ニ岡村寧次ヨリ申請

アリシリ依而既ニ船舶運輸ニヨルラ原則トスベク議定シ後勤總司令部ニ命

目下運輸計画申上ルニ付移命上承知スベシト通報スルニ付承知相成度
右通報ス

武漢地区見官其善後連絡部 岡部直三郎部長

井衛生部 武漢行營參謀長 郭 熾

二、衛生機關業務ノ概要

一、三月末日ニ於ケル第六方面軍醫部ノ編成左ノ如シ

軍醫部長 軍醫少將 齋藤 勤

部 員 軍醫中佐 永木俊一郎

同 換劑少佐 毒島豊太郎

同 軍醫大尉 田中敏行

部 附 軍醫中尉 小澤五一郎

同 軍醫少尉 高橋 恒夫

同 同 久保田幸次郎

同 齒科醫少尉 山岸茂利一

内田軍醫大尉ハ第六方面軍上海先遣隊要員トシテ三月二十五日上海ニ向ケ出發シ手塚軍醫大尉ハ「アイバ性赤痢」ニテ第百五十八兵站病院ニ入院セリ

内田大尉ニ與ルル軍醫部長指示左ノ如シ

内田大尉ニ與ルル指示 昭和二十一年三月

統集團軍醫部長 齊藤少將

貴官ハ統集團先遣隊要員トシテ上海ニ先向シ總軍及第十三軍軍醫部ト不断ニ連絡シ概ネ左記事項ヲ管掌スベシ
任極メテ重シ貴官ノ活躍ヲ期待ス

- 一、上海ニ於ケル統集團隷下部隊ノ衛生指導殊ニ宿營地ノ衛生防疫検査ニ關スル指導ヲ行ヒ又漢口ヨリ上海迄ノ輸送間衛生上改善ヲ要スル事項ヲ下航輸送船毎ノ實情ニツキ調査シ統司令部ニ速報シ改善ノ資トナスベシ
- 二、統軍醫部ノ計畫ニ基キ統集團管内ノ患者ヲ速ク上海ニ收

東京小津船

0006

容スル如ク關係方面ト極カ折衝シ其ノ推進ニ努カスベシ

武漢地区重症者又傳染病患者數ヲ把握シ之ニ對シ病院船又ハ應急的

ニ施設セル船船ヲ必要回数上航セシム此等患者ノ輸送ヲ促進スルヲ要ス

三、漢口ヨリ患者ノ輸送間ノ給養、船内施設其ノ他諸種ノ缺陷ニ關シテハ關係者

ニ連絡シ之ガ改善ニ努カスベシ

四、居留民中ノ重症患者ノ上海ニ於ケル收容機關内地ヘノ輸送方法ヲ調査スル

ト共ニ漢口ヨリ後送セラル、居留民患者ノ收容ヲ円滑ニ實施シ得ル如ク手

配ヲ行フベシ

五、上海地区ノ傳染病流行狀況ヲ知悉シ收容患者ノ防疫處置ニ遺憾ナキヲ

期スベシ

2. 第百五十八兵站病院建物ハ中國武漢陸軍病院ニ供用セラル、

爲四月ノ第一回患者後送時護送員トシテ同病院職員全

部ヲ下航セシムルコトトナリシルヲ以テ同病院ノ病理試驗部ハ

漢口檢疫ノ爲殘置セシムル必要アルヲ以テ左ノ通轉屬セシム

統通報第三一三號

病理試驗部轉屬ニ関スル件

昭和五年三月三日 武漢地区軍官兵善後連絡部部長 中山貞武

武漢行營戰任管理處兼處長 劉峙衛將軍閣下

第五百八兵站病院復員ニ伴ヒ同病院病理試驗部ハ漢口ニ於テハ檢疫ノ爲ニ第五百七十八兵站病院ニ轉屬シ現在地ヲ撤去シ檢疫業務ハ第五百八兵站病院江岸病棟ニ於テ實施セシメ度ニ付御諒承相成度

3. 第六方面軍管内ノ日本軍籍ニアリシ朝鮮人及台灣人ハ之ヲ漢陽ニ收容シ韓台管理所ヲ設置シ中國ニ於テ管理シアリケ同所ノ收容人員ハ約二千ニテ内七百名ハ患者ナリ依ツテ韓國側ノ要請ニ基キ日本軍ヨリ衛生部將校以下ヲ派遣シ左ノ取キメニ下ニ勤務セシ

東京小津納

0008

韓臺管理所ニ日本衛生部員派遣ニ關スル協定事項

一 日本軍ヨリ派遣スル衛生部員ハ軍醫將校一、衛生下士官一、衛生兵

ニトス

二 勤務ノ第百十二兵站病院復員時迄トス其ノ以前ニ韓國兵ノ歸還ス

ル場合ハ其ノ武漢出發時期迄トス

三 勤務員ハ每週交代セシム

四 日本軍衛生部將校以下ハ博愛精神ニ基キ診療ニ遺憾ナカラシムルト共ニ

韓國側ハ日本衛生部將校以下ヲ尊重シ日本衛生部將校以下ノ衣食

住ニ關シ有テ便宜ヲ與ヘ絕對紛争ヲ惹起セザルコトヲ保證シ中國側

0009

關係機關ハ之ヲ監督並ニ指導ニ任ズルモノトス

五 診療程度ハ日本軍部隊附軍醫將校ノ勤務ニ準ズ

六 日本衛生部將校ノ要求ニ基キ所要ノ衛生材料及診療施設ハ韓臺管

理所於テ準備スルモノトス

七 入院ヲ要スルモノハ第百七十八兵站病院ノ收容方ヲ顧慮シ同病院督察

官及病院長ノ認可ヲ得テ行フモノトス

八 中國側衛生機關整備ニ伴ヒ成ル可ク速カニ韓國入院者ヲ中國側衛生機

關ニ收容スルモノトス

右協定事項ニ違反スル場合ハ即時派遣ヲ中止ス

0010

昭和二十一年三月二十一日

武漢地區日本官共善後連絡部參謀長 中山貞武

韓臺管理處長

韓國側代表

寫記石先

總管理處 衛生處 韓臺管理處 韓國側代表 金 182 118

善後連絡部(中協參軍)

0011

陸軍

三人の戦力増強ニ關スル事項

各兵團ハ依然糧秣ノ補給円滑ナラザル爲給養狀況低下シ兵ノ
体力低下シ兵ノ体々低下著シキモナリ殊ニ咸寧獨立歩兵第十
ニ旅團及黃岡團風華容鎮等ノ集結部隊ニ於テ甚シ加之
中國側ニ於テ米ノ收集困難ナル爲左ノ通報アリ

東經糧字第八〇三號

中華民國三十五年三月三日

代電

後方勤務司令部湖北供應局ヨリノ通知ニヨレバ

「近來交通不便ニシテ漢口駐留部隊頗ル多数トナル爲食糧ノ支出ニ不足シアリ
依而武漢行營會議ノ決定ヲ経テ本三月下旬ヨリ駐軍以外ノ戰俘主食ハ三
分ノ一ノ雜穀ヲ以テ配當スルモトス」トアリ
依テ右所屬ニ轉報通知相成度

連絡部宛

武漢行營第一戰俘管理所兼所長 林映東

0012

四、一般及衛生關係涉外事項

一、三月一日中國ノ編成改正ニ依リ第六戰區ハ解消シ武漢行營ヲ設立ス管理處ノ名稱モ左ノ通彙更ス

管書字第七七〇號

中華民國三十五年三月九日

代電

軍事委員會委員長武漢行營二月二十七日附第一〇六九號代電ニ據レハ第六戰區長官部ハ既ニ命ニ依リ解消該部所屬ノ戰俘管理處ハ三月一日ヨリ改メテ本行營ニ隸屬シ軍事委員會委員長武漢行營戰俘管理處ト呼稱ス

依而夫、文書ヲ以テ報告並通知スルモ特ニ通知スルヲ以テ承知スルト共ニ所屬ニ對シ承知セシメラレ度ト

右夫、文書ヲ以テ通知スルモ特ニ電報スルヲ以テ承知相成度

連絡部宛

第一管理所兼所長 林映東

2. 居留民中ノ重症患者ハ輸送ノ現況上軍ノ患者ト後送
ヲ共ニセシムルヲ可トスルヲ以テ左ノ通中國側ニ通報シ原案
通許可アリ

統通報第二七一號

日僑重症患者ヲ官兵患者輸送時同乗下航致サシメ度件

昭和二十一年三月十八日 武漢地界軍官兵善後連絡部參謀長中山貞武

國民政府軍事委員會委員長武漢行營駐屯管理處

兼處長 劉倚衡將軍閣下

現在日僑ニ重症患者ハ約四五〇名(患者ニ附帶セル家族ヲ含ム)アリ之ヲ
特ニ次回官兵患者輸送時同乗下航致サシメ度ニ付認可相成度

説明

- 一、本申請ニ係ル患者ハ重症者ニシテ一般日僑ト同乗セシムルハ困難ニシテ且
- 一般日僑輸送前ニ之ガ輸送ヲ實施セザルハ一般日僑ノ輸送ニ大ニ障碍ヲ
生ズベシ

二日僞患者ハ官兵患者ト異リ夫ハ家族ヲ有テリ

之ガ爲患耆ト其ノ家族ヲ別別ニ輸送スルハ患者及其ノ家族共ニ大ナル苦痛
不安ヲ與フルハ明ナルヲ以テ是非共同行輸送致度

衡字第一三三三號

中華民國三十五年三月二十三日

通 報

貴統通報第二七二號受領シ

復員開始ヲ待テ送送及輸送スルヲ許可ス 茲ニ回答スルニ付承知相
成度

右通報ス

武漢地区日本官兵善後連絡部參謀長 中山貞武

武漢行營戰俘管理處兼處長 劉倚衡

予豫テ衛生部及ノ歸國時ノ私物携行書類及醫藥器械ニ

東京小津納

0015

陸軍

關シ接涉中ナリシガ左ノ通回答アリ

管書字第七九號

中華民國三十五年三月五日

代電

第十八軍司令部 二月二十七日附 醫弁字第九八四號代電ニ依リハ

嗣後日俘曰僑ニシテ医療關係ノ人員歸國時ニ際シ各人使用ノ聽診器一個及

医菓書籍小數携行許可方日本例ヨリ申請アリタルモニ妥當ナルヲ以テ申請

通處置スヘキ旨陸軍總司令何應欽ヨリ京(廿五總衡字。〇七六號)代

電アリ依テ夫レ電達スルモ上記ノ如ク處理スヘシト

右下命スルニ付遵守處理セシ度

連絡部宛

第一管理所兼所長 林映東

4. 患者ノ收容ニ關シテハ複雑ナル手數ヲ要シ收容円滑ヲ缺ク
場合多シ 即チ各兵團ヨリ入院豫定患者ヲ第六方面軍
軍醫部ニ打電ニ來リ軍醫部ニ於テハ病院ノ收容狀況ニ應

0016

ニ收容病院ヲ定メ衛生處ニ連絡シ其ノ許可ヲ受ケ各兵團
ニ回答シアリ然ルニ此ノ手續ヲ終ル事ナク後送スル部隊
アリ又豫定人員ヨリモ多数ヲ後送シ來ル場合アリテ其ノ
都度輸送担任者ト病院督察官トノ間ニ悶着アリ
之ガ爲左ノ通報アリ

衛字第三一四號

中華民國三十五年三月二十三日

通 報

仙桃鎮ノ患者三十六名ヲ第三病院收容スルコトヲ許可ス別ニ病

院管理所ニ電報ニ收容ヲ命ジアルニ付承知相成度

貴部統通報第一九三號受領セリ

仙桃鎮患者三十名ハ本處衛字第三四〇號通報ヲ以テ均ク武漢ノ後送ヲ

見合セアリタルモ未ダ許可ナキニ塩リニ送致スルコトニ回ニ及ヘリ而シテ送り來ル

患者數ハ通報上ニ記載シアル額ヲ超出シアルハ特ニ病院ノ收容量ニ影響有

東京小津納

0017

陸軍

スルニナラス收容轉送ノ順序ヲ紊乱スルモノナリトモアレ該兵中病氣重キ
モノハ診斷シテ後收容ヲ許可ス病院兼管理處ニ電報ニ第三病院ニ收容
セムモ特ニ回答スルヲ以テ承知スベシ

右通報ス

武漢地区日本官大善後連絡部參謀長 中山貞武

武漢行營戰俘管理處幕處長 劉倚衡

衡字第一一三五號

中華民國三十五年三月九日

通 報

本處病院管理所ヨリ概畧左ノ如キ電アリ

「武漢区各病院收容能力ハ甚テ微弱ナルニ付日方連絡部ニ對シ各部隊
ノ單独患者ハ暫時其原隊ニ留メ療養シ一部ガ空間ニナリテ後
再々輸送加療スベク傳達相成度ト」

惟フニ該事ハ実情ナシ付申請ノ如ク處理方許可ヲ與フルモ特ニ傳染
病發生シル場合ニ限り送院治療セムルヲ許可スルトセリ

0018

依而直至各部隊ニ移命ノ上遵守處理相成度

右通報ス

武漢地区日本官兵善後連絡部委員長 中山貞武

戰俘管理處兼處長 劉倚衡

五、患者輸送

月間下流地区へ患者後送 ナシ

各兵團ハ復員準備ニ爲逐次患者ヲ武漢ニ集結ニ来ル

月間集結患者左ノ如シ

發送地区	回数	患者数	摘要
仙桃鎮	一	三〇	
黃岡	一	九五	
團風	一	六八	
新墻	一	二〇	
發送地区	回数	患者数	摘要
秭武	一	八七	
嘉魚	一	一六六	
計	二	四六六	

東京小津納

0019

爾後ニ於ル患者輸送計畫ヲ作製(別紙第一)ニ中側ニ提出シ配船方ニ通報ス

六衛生材料ノ狀況

四日元第十一軍參謀長ヨリ痘病及マラリア劑空輸方電報アリ
曩ニ準備シタル六万五千分ヲ八日九江迄空輸ス

八日一時田滑ナリシ補給業務ハ武漢衛生材料部ヨリノ派遣將
校原隊復歸以來澁帯シ特ニ「サルバルサシ」劑、マラリア劑
及アメーバ赤痢劑ノ補給悪ク部隊診療ニ支障ヲ生ジ
アルヲ以テ統通報第三四號ヲ以テ別紙ノ通總管理
處及衛生處ニ對シ補給ノ田滑化ニ關シ要請ス

同日元独歩五旅團ヨリ悟醫電第八號ヲ以テ軍需品處理
調書調製ニ關シ照會アリ

土言總管理處長ニ對シ日軍側補給業務援助ノ爲第三補
給區司令部ニ藥劑將校一名派遣ニ關シ申入ル(統通報第三四號)

同日元第十軍ヨリ痘苗受領セル旨及衛生材料支領ノ爲武漢ニ
出張シアル内山大尉ノ其ノ後ノ状況照會ノ電報アリ(呂集齋
電第一〇六號)

十四日前項ニ對シ目下折衝中ニテ近日受領ノ見込ナル旨回答ス

(統醫電第三四號)

十六日鄂城地区隊ヨリ部隊裝備衛生材料ノ毀損亡失及廢品處分

要領ニ關シ照會アリ(鄂醫電第二五號)

十七日悟醫電第八號ニ對シ統醫電第三六號ヲ以テ回答ス

二十一日 鄂城地区隊 鄂醫電第二五號ニ對スル回答ヲ打電ス

(統醫電第四五號 第四七號)

二十四日 鄂城地区隊ヨリ衛生材料ノ接收ニ關シ照會アリ(鄂醫電第

三〇號)

二十五日 右ニ對シ回答ス(統醫電第四七號)

同日 武漢衛生材料部ニ於テ軍政部ニ引渡シタル衛生材料中緊要

東京小津納

0021

品目数量ヲ別紙(統通報第三〇〇號)ノ如ク調査シ武漢行營及衛生處ニ提出ス

二十六日總醫電第九二號ヲ以テ痘苗並「コレラ」及三種混合豫防接種液所要量ノ照會アリ

二十七日右ニ對シ統醫電第五一號ヲ以テ回答ス

同日鄂城地区隊ヨリ豫防接種交付方要求アリ(鄂醫電第三二號)同日來漢シアリシ連絡將校ニ「コレラ」豫防接種液一萬名分ヲ交付ス

月間第一五八兵站病院病理試驗部ニテ製造セル「コレラ」豫防接種液 一一七、五〇〇〇ニ達ス

右ノ交付狀況左ノ如シ

交付部隊	数量	摘要
楊子兵站	一〇〇〇〇	
碇泊場司令部	五〇〇〇	

交付部隊	数量	摘要
鄂城地区隊	五〇〇〇	
憲兵隊	五〇〇〇	
独立自動車四九大隊	九〇〇〇	揚子兵站交付数量中ヨリ交付

(納谷奥・京東)

0023

統通報第三〇〇號

緊要衛生材料調査ニ関スル件

昭和五年三月二十五日

武漢地区日本官兵善後連絡部參謀長 中山貞武

軍事委員會委員長 武漢行營戰俘管理處
兼處長 劉倜衡將軍閣下

在橋口及武昌衛生材料部ニ於テ接收セラレタル衛生材料中
當軍ニ於テ須要ナル品目数量ヲ曩ニ第一補給司令部衛
生處長ヨリ要ホセラレタル所ニ依リ調査提出スルニ付之ガ文
付方取計ハレ度

追テ本調査表ハ既ニ武漢地區各兵站病院ニ於テ接收セ
ラレタルモノハ計上シアラザルニ付念ニ為申添フ

0024

緊要衛生材料調査表

品目	箱数	所要数		接收地	摘要
		元第六方面軍	元第二〇軍		
アドソルビン	瓦		二八〇〇〇	武昌	下痢患者用
アルシリン	〃		三〇〇〇〇	〃	〃
イヒチオール	〃	四〇〇〇〇		〃	外皮病患者用
塩化石灰	〃	二〇〇〇〇		〃	注射薬製造用
グエロナル錠	筒		三〇〇〇	漢口	乗船時眩暈用
カンフル液	〃	二〇〇〇〇		〃	重症者用
キニーネ液(強)	〃		一二〇〇	〃	瘧治療用
クレオソート丸	瓶	七〇〇		〃	防疫用
クレゾール石鹼液	瓦	五〇〇		漢口	リゾール或ハ散烹用
健胃錠	筒		八〇〇	武昌	リゾールニテセリ
高張糖液五cc.	〃	一〇〇		〃	重症者用
		三三〇	一三二〇		

0025

品名	目録	数	計		接收地	摘要
			元第六方面軍	元第二〇軍		
沃丁(大管入)	筒		三〇〇〇	三〇〇〇	"	外傷用
鴉膽子	〃	五〇〇〇〇〇	八五〇〇〇	五八五〇〇〇	"	アトバ赤痢治療用
木タール	瓦	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇	"	外皮病患者用
マフニン錠	筒	四〇〇〇		四〇〇〇	漢口	驅虫用
硼膏	〃	三〇〇〇〇	八〇〇〇	三八〇〇〇	"	外皮病患者用
多硫膏	瓦		三〇〇〇	三〇〇〇	武昌	皮膚病患者多發不足シテリ
ガスルファミン錠	筒	二〇〇〇〇	八〇〇〇	二八〇〇〇	漢口	
ツツラエキス散	〃		四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	"	
石炭酸(液状)	〃	八〇〇〇〇		八〇〇〇〇	武昌	"
昇汞塩	〃	一〇〇〇〇〇		一〇〇〇〇〇	漢口	消毒用
撒曹	〃		一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	武昌	
サリチル酸石灰	〃	一〇〇〇〇〇		一〇〇〇〇〇	"	結核性疾患治療用
醋剝液	瓦	一〇〇〇〇〇		一〇〇〇〇〇	漢口	利尿劑 各病院共不足シテリ

0026

減 備 か し せ 〃	か し せ 〃	ペ ト リ ー 血 筒	脱 脂 綿 〃	乳 糖 〃	肉 ニ キ ス 〃	ペ プ ト ン 〃	苛 性 ソー ダ 瓦	口 ト 錠 筒	硫 化 カ リ 〃	リ チ ネ 〃	硫 黄 華 〃	硫 規 〃	陽 性 石 鹼 瓦
	五 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇							一 二 〇 〇 〇		三 五 〇 〇 〇	一 六 〇 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇 〇
四 〇 〇	四 〇 〇	五 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇	一 四 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇	一 五 〇 〇	七 五 〇 〇		二 五 〇 〇 〇		四 〇 〇 〇 〇 〇	
四 〇 〇	五 四 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇	一 四 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇	一 五 〇 〇	七 五 〇 〇	一 二 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇	三 五 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇 〇
〃	〃	〃	武 昌	漢 口	武 昌	漢 口	武 昌	漢 口	武 昌 漢 口 〇 〇 〇 〇	武 昌	〃	〃	〃
		檢 疫 用		檢 疫 用	六 〇 世 檢 疫 用	新 製 量 一 〇 〇 〇 〇 〇 檢 疫 用	檢 疫 用		皮 膚 病 患 者 用		皮 膚 病 患 者 用	癩 治 療 用	消 毒 用

0027

品	目数	計	接收地	摘要
試驗管	箱	三〇〇〇〇	武昌	
		三〇〇〇〇		

備考

一 右表数量ハ武漢地區兵站病院ヨリ返納セル材料中ニナキ為衛生材料部
ニ於テ接收セラレル衛生材料ヨリ補給ヲ要スル品目数量ニテ計上セルモノ
ノニシテ武漢地區兵站病院ヨリ返納セル衛生材料ハ所要ニ應ジ補給
ルルコトヲ前提トシテ算出セリ

特ニ「サルバルサン」ハ第三陸軍病院返納品一五〇〇箱ニ依存ス
ニマラリア劑算定基礎左ノ如シ（元第六方面軍ニ）

發生見込患者数 約八〇〇〇〇

再發 兵額ノ三〇%

新感染 〃 三〇%

計 六〇%

一人所要量 二〇瓦

統通報第三〇七號

患者後送計畫ニ關スル件

昭和三年三月二日

武漢地區日本官兵善後連絡部參謀長中山貞武

軍事委員會委員長武漢行營戰俘管理處兼處長

劉倚銜將軍閣下

首題件別紙ノ如ク送付スルニ付配船ニ關シ配慮相煩度

0029

別紙

一 武漢地區ヨリハ要後送患者數

備考	武漢地區		第一五八兵站病院		第一七八兵站病院		第一八二兵站病院		患者療養所(母)		總計
	區分	病院名	重症	其他	重症	其他	重症	其他	重症	其他	
各項患者數ハ三月末現在調トス			六七〇	一、六〇〇	五八二	一、七四二	三一〇	五五三	五二七	一、二三〇	二、〇七七
									七	一一〇	五、二三五
											七、三三二

二 第一項重症患者ハ病院船若クハ患者ガ臥床シ得ル如ク施設セル船ニヨリ輸送セラレ度 搭載人員ハ其ノ都度定ム

三 武漢地區患者(重症者ヲ除ク)後送計畫左ノ如シ

0030

護送患者數 護送員 患者差出病院

1	一三〇〇	二〇〇	第一五八兵站病院
2	一三〇〇	二〇〇	第一七八兵站病院
3	一三〇〇	二〇〇	第一五八兵站病院 第一三八兵站病院
4	一三〇〇	一〇〇	第一三八兵站病院
5	一三〇〇	一〇〇	第一二八兵站病院
計	五三〇〇	八〇〇	

四 第一項患者ノ外復員迄ニ豫想セララル、要後送患者數尤

重症者 一〇〇〇名

其他患者 二〇〇〇名

五 日僑民患者中重症者ニ對シテハ第二項ニ準シ附帶家族（

0031

重症患者一名ニツキ平均五名ノ共病院船若クハ之ニ準ズルモノ
ニヨル下航ヲ考慮セラレ度 患者數左ノ如シ

重症患者 一〇〇名

附帯家族 五〇〇名

計 六〇〇名

0032

統通報第二三四號

陸軍

衛生材料補給ニ關スル件

昭和五年三月八日 武漢地区日本官兵善後連絡部參謀長 中山良武

武漢行營戰俘管理處長 劉倚衡將軍閣下

衛生材料中最近特ニ治病上支障ヲ來セラルハ、サルハルサン劑、マリア劑及
アミノ、赤痢等ニシテ之カ補給ハ目下殆ト行ハヒサル為部隊ハ止ムヲ得ズ僅少
ナル副食費ヲ割キ高價ナル市販品ヲ購入シ其ノ一部ヲ補ヒアルモ患者多數ナル
爲衛生材料不足ニ基因ニアリテ多數ノ死亡者ヲ出シタルハ洵ニ遺憾ニテ人道上
重大ナル問題ナリ之ヲ解決セン爲 曩ニ二月十九日當部軍醫部長ハ
貴處長閣下ニ面接シ直接依頼セル所ナリ 其ノ際部隊ヨリ所要數
ノ基礎ヲ明示スレバ交付セラルベキ旨確答ヲ得 竟ヲ安ンジアリタリ
然ル所其ノ後黃岡地区ヨリノ請求ニ對シテハ同地区高級軍醫及同地区管理
處副官同道シ患者ノ窮狀及衛生材料不足シメ多數死亡シタル現状ヲ陳

0033

説明セルニ拘る依然回歸熱(部隊現在患者數約五〇〇名)ニ對シテハ「サルバル
サン」ノ支付量ハ全クナク「マリア」(部隊患者數約一〇〇〇名)ニ對シテハ僅カニ
硫規未ニ疔ノ支付量ヲ決定セラレタルニ過ギズ 又傳染病好發期ヲ控エ
「ソレソル」ノ支付ハ認メラズ 右決定數量ニ對シテモ在橋口支付部隊
ニ於テハ日本軍ヨリ接收セシ衛生材料ノ現品ト点檢封緘濟ナルヲ理由ト
シテ容易ニ支付セラレズ 二月二十六日ヨリ連日三回出頭セルモ遂ニ現品
ヲ支付セラズ 三月一日第三衛生器材補給隊(江漢中學)ニ於テ
藥物ニ上貞約三十磅ヲ受領セルコトナリ
此ノ際同行セル黃岡地区管理處副官ヨリ聲察官ニ特ニ懇望シ
「サルバルサン」ニ〇箇ノ支付ヲ受ケタルモ硫規未ニ疔ハ錠劑ニ〇〇〇箇
ニ(即チ硫規未四〇〇丸ニ相當)不削減セラレタリ黃岡地区隊ニ於テハ
「サルバルサン」ナキ爲 十二月同地ニ集結以來一月二十日迄ニ回歸熱ニ
因ル死セ者三三名ニ達シ其他ノ疾患ニ因ル死セ者モ二六四名ノ多キヲ
出セリ 然モ衛生材料ノ補給右ノ如キ状態ニテハ部隊ニ呻吟シタル患者ヲ

(納谷典・京東)

0034

陸軍

供手傍觀スルノ外ナリ當部トシテモ復員ヲ目前ニ控ニ衛生材料ヲ交付
セラレザル爲患患者ヲ死セザルハ吾人ノ職責上ノ不問ニ付スル能ハズ今後
ノ患者ノ治療上實ニ寒心ニ堪ヘズ

茲ニ特ニ貴方ノ博愛精神ニ訴ヘ部隊患者ノ實情ニ應ズル所要
ノ衛生材料ヲ補給セラレハ如ク配慮相煩度重ネテ西也請ス

尚衛生材料庫保有ノ現品ヲ点檢封緘セル後ト雖モ日本軍
ノ衛生材料ハ日本軍ニ補給スト明言セラレタル處ニ其キリ読
キ之ヲ補給セラレハモト信ズルモ貴意承ル度

0035

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(納谷 典・東京)

0036